

住民自治協議会だより

第29号

発行 小田切地区住民自治協議会

〒380-0876
長野市大字山田中2545

TEL 026-229-1511 FAX 026-229-2074
E-mail otagiri-jitikyou@ngn.janis.or.jp

小田切地区案内マップ 発行

訪れる人の道案内や観光ガイドに

小田切地区を訪れるみなさんに、道案内が難しかった地区内を気軽に動けるような案内マップができました。幹線県道を基軸に、集落を結ぶ道路や全集落に設置した停留所を目標地点とし、史跡や名勝、絶景ポイントなど見どころを写真とともに掲載しました。多くのみなさんに小田切の魅力を紹介し、車での訪問に加え、サイクリングやウォーキング、小田切八景めぐりなどに活用してもらえんと思います。

マップは全戸配布しましたが、希望される方は小田切地区住自協、小田切支所、小田切交流センターにありますので各窓口にお問い合わせください。

この事業は令和2年度「ながのまちづくり活動支援事業」の補助金交付を受けて行いました。



小田切郵便局 撤退 唯一の金融機関なくなる

小田切郵便局が10月9日限りで営業を終了し撤退。昭和13年12月に現地に開局し、当時村唯一の金融機関となり、電報の取扱いもしていました。当時から村民の生活に大きな便益をもたらし親しまれていただけに残念です。まさに高齢化社会に逆行することであり、弱者に買い物や交通に加え金融も加わってしまいました。

最寄りの郵便局へ「かつら号」停留所の設置を要望しましたが、地区外への運行となるため応えてもらえないのが現状です。



令和2年度 小田切地区総合自主防災訓練

避難所体験と東日本大震災「災害伝承語り部」講演会



隔年開催の小田切地区総合自主防災訓練は、11月8日（日）に小田切交流センター体育館に災害対策本部を立ち上げて行いました。各区防災会や消防小田切分団、住自協役員など約80名が参加しました。

想定は「豪雨による土砂災害警戒情報が発表され、地区内全域に避難勧告がでた」とし、各区防災会は区内の避難行動要支援者宅を確認してから、避難経路の安全を確かめて近くの避難所へ実地訓練をしました。

今年は、段ボールベッドや簡易テントのプライベートルーム組立てなど避難所体験もしました。また、東日本大震災で避難所運営に従事した「災害伝承語り部」仙台市の吉田亮一YYネットワーク代表の講演会を行い「防災は、最大の危機感と想定以上の備えで命を守ること」が基本とのことでした。



三竈神社裏の風穴 修復完了 冷気を感じに訪れてみては

環境・地域活性化部会で、昨年9月から整備してきた、三竈神社裏の2か所の風穴は修復が終了しました。主に崩れていた石を積み直し、風穴の内部に入って体験することができます。神社横から下りる歩道も整備しましたので、冷気を感じ外気温との比較に訪れてみてください。



「令和2年7月豪雨災害義援金」日赤長野支部に送る

小田切住自協は、日赤長野支部が募った「令和2年7月豪雨災害義援金」に、事務所に募金箱を置き、訪問者から寄せられた義援金4,508円を日赤長野支部に10月送金しました。7月豪雨は、熊本県球磨川の氾濫決壊など九州地方が最大の被害地でしたが、小田切地区でも7月は連日雨が続き各所で災害がありました。

また、同時に全戸配布の政府支給布マスクも、使用しない方から提供を募り、6袋ほどでしたが地域包括支援センター安茂里に届け活用をお願いしました。

和輪話の会「長野地域包括ケア推進セミナー」にオンライン参加

第11回和輪話の会は10月30日、長野地域包括ケア推進セミナーにオンライン参加しました。まず、鬼無里、篠ノ井地区の事例発表と市地域包括ケア推進課の「生活支援体制整備に向けて」の説明を聴きました。

これを踏まえた「人と組織と地球のための国際研究所」川北秀人代表の講義は、長野市の地区毎の人口構成分布集計など違った目線での分析でした。他県の自治会の取組み紹介も、概ね悩みは類しており、和輪話の会が今取り組んでいる家事援助などの進め方は間違いなく、更に範囲を広げ、住民ニーズをいかに掴むかが重要だと感じました。

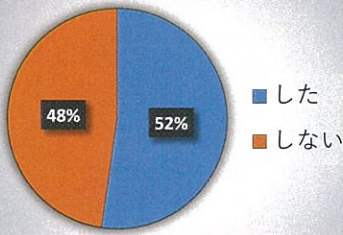


「ひとり暮らし高齢者の集い」聞き取り調査 集計

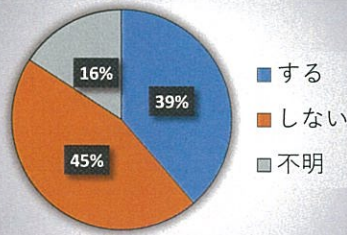
全対象者数 65名
調査人数 44名

福祉委員会は、「ひとり暮らし高齢者の集い」の今後について対象者の意見を聞くため、区福祉委員が各区数名に聞き取り方式で調査しました。

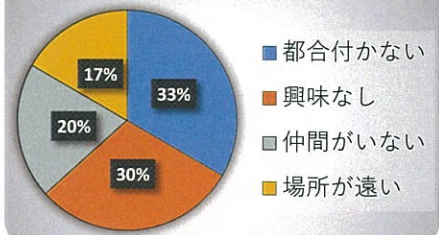
過去参加



次回参加



不参加理由



小田切中学校グラウンドの再整備 夏まつり会場のほかにも活用検討



昨年6月に整備してから草の伸びが目立ち、再度の手入れを10月14日、従来メンバーに協力を申し出てくれた仲間を加え16名で行いました。校庭から本来の景観を取り戻すため、支障木整理も加えた作業はかつてPTA奉仕作業として晩秋の恒例行事でした。

途中、長野翔和学園の16名も加わりお手伝いをお願いし、作業後のとん汁とおにぎりでの反省会は、久々の顔合わせで賑やかでした。

せっかく整備したグラウンドは、夏まつりのほかみんなが楽しめることに活用できればと考えています。



長沼地区に野沢菜 贈呈 長沼水害復興支援小田切プロジェクト

長沼水害復興支援プロジェクトは11月9日、長沼支援圃場で8月末に播種した野沢菜の贈呈式を、長沼から6名を迎えて小野平の現地で行いました。このあと長沼では地区内に呼び掛け、12月にかけて自由に訪れ収穫し持ち帰ってもらいました。



広がる活用 エルダーフラワー 新商品も好評

小田切産エルダーフラワーの商品が増えてきました。従来のコーディアルや花を添えたスイーツや料理に続き、生花を加工したネックレスや箸置きなどが加わり保湿化粧水や保湿クリームなどの化粧品も全国販売されました。更に今までにない新しい商品にも挑戦しています。



化粧品



ネックレス



箸置き



三輪地域間交流会「野菜広場」

10/17



人権を考える住民の集い

12/18



保健補導員会 運動講習会 in 鬼無里

9/28



加茂神社



春日神社

家事援助 障子張り



10月区長会

10/21



保健補導員会

11/9



おめでとう

昨年の正月はオリンピック年の幕開けで盛り上がったが、突然「新型コロナウイルス感染症」が流行りだし、11月からは第3波。長野市もいつどこで感染してもおかしくない日々が続き、「臆することなく」とはいえ、住自協の忘年会は暑気払いに続きやむなく取り止めた。

そんな中、小田切案内マップができた。地区紹介や案内にご活用ください。Go To Eat券、マップ内で使う所はないが、ちょうど一万円札と同じ大きさで財布にぴったり収まり、なにか良い。